

シンプル！スピーディー！ 「ポカミスゼロ」への具体的なアプローチ

— 10,000件越の事例から導き出された26の要因と3つのアプローチでポカミスゼロを実現

日時 2018年 **6月12日(火)** 10:00~17:00
(9:30受付開始、休憩12:30~13:30)

主催  日刊工業新聞社

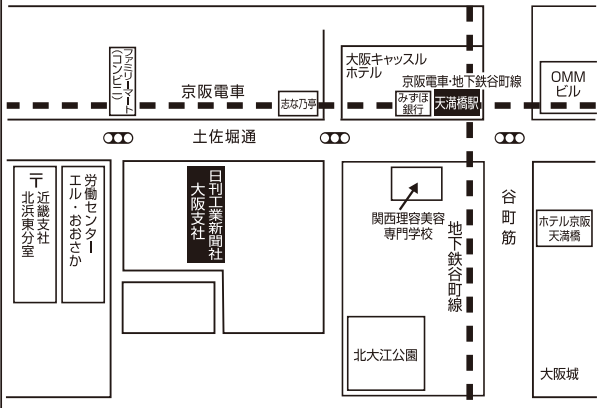
会場 日刊工業新聞社 大阪支社 セミナールーム
(大阪市中央区北浜東 2-16)

受講料 **43,200円** (資料含む、消費税込)
*同時複数人数お申し込みの場合2人目から38,880円

大阪会場(日刊工業新聞社 大阪支社10階)

大阪市中央区北浜東2-16 TEL: 06(6946)3382

- *天満橋駅(京阪電車、地下鉄谷町線)下車徒歩3分
- 新大阪駅から地下鉄御堂筋線(新大阪→淀屋橋)北側出口 乗換、京阪電車(淀屋橋→天満橋)西改札口
- 大阪駅から地下鉄谷町線(東梅田→天満橋)北側2番出口



日刊工業新聞社 大阪支社 セミナー会場

〒540-0031 大阪市中央区北浜東2-16

※会場には受講者用の駐車場がありません。必ず最寄りの公共交通機関でご来場ください。
※講義の録音・録画は固くお断りいたします。

●申込方法

申込書を郵送又はFAXにて下記にお申し込みください。ホームページからお申し込みできます。(http://corp.nikkan.co.jp/seminars/) 受講料は銀行振込で受講票及び請求書が到着次第、開催日1週間前までにお支払いください。
なお、キャンセルにつきましては開催日1週間前までの受付とさせていただきます。1週間前までにご連絡がない場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。振込手数料は貴社でご負担願います。

口座名義	りそな銀行	東京営業部	当座	656007
(株)日刊工業新聞社	三井住友銀行	神田支店	当座	1023771
	みずほ銀行	九段支店	当座	21049
	三菱東京UFJ銀行	神保町支店	当座	9000445

●申込先 日刊工業新聞社 業務局 イベント事業部 技術セミナー係

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)
TEL 03 (5644) 7222 FAX 03 (5644) 7215
e-mail: j-seminar@media.nikkan.co.jp

受講申込書

6/12 ポカミスゼロ

お申し込みは FAX 03-5644-7215

■受講料: 43,200円 (資料含む、消費税込) *同時複数人数お申し込みの場合2人目から38,880円

※振込手数料は貴社にてご負担ください。

会社名		業種	
氏名	フリガナ _____	TEL	
	部署・役職 _____	FAX	
所在地	〒 _____		
	E-mail: _____	※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は <input type="checkbox"/> チェックをしてください。	

※お申込み受付後、受講票ならびに請求書をお送りいたします。

No.182048

個人情報の取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。
なお、宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。【ご連絡先】日刊工業サービスセンター 情報事業部 nkmail01@nikkansc.co.jp

開催主旨

ものづくり現場においてポカミスは永遠のテーマです。その永遠のテーマに「ポカミスゼロへのアプローチ」は終止符を打ちます。

ポカミスがゼロにならない理由は5つあります。その中でも大きな理由は、ポカミスの要因がわからない、モラル低下（標準を守らない、ルールを守らない）と人の限界です。

「ポカミスゼロへのアプローチ」では、そのポカミスの要因を定義し、発生メカニズムを解明し、有効な対策を提供します。また、『人ゆえにポカミスが起こる』というテーマに真正面から取り組み、「モラルアップへのアプローチ」で作業者のモラルを再構築するツールを管理・監督者、スタッフに提供します。

更に、どうしてもなくならない人の限界作業、検査ミス、入力ミス、判断ミスにAIを活用したゼロにする試みを紹介します。

今までポカミスがゼロにならないで悩んでいる方、決まりきった対策で行き詰まりを感じている方、絶対にポカミスをゼロにしたいと思っている方にとって目から鱗（ウロコ）の内容です。

「ポカミスゼロへのアプローチ」により、ポカミスゼロの世界を実体験してください。

※本セミナーでは、テキストとして講師著書「やりたくなる5S」（日刊工業新聞社）を使用します。受講者へは、当日進呈いたします。

講師

株式会社ロンド・アプリウェアサービス **中崎 勝氏**

【略歴】 1981年、プリデストンに入社。生産技術や設備設計、保全業務に従事する。1987年に日本DECに移籍し、システムエンジニアに従事。1992年、ロンド・アプリウェアサービスを設立し、製造業を中心としたコンサルテーションなどで多くの成果を上げる。不良ゼロを可能にする実践アプローチにもとづく指導方法に定評があり、国内メーカーに加え、韓国メーカーなどでも大きな改善効果を上げている。また、技術セミナーも幅広く実施しており、具体的な要因分析にもとづき、かつ具体例を提示するプログラムで好評を得ている。

プログラム

はじめに：ポカミスがゼロにならない5つの理由

1. ポカミスゼロへのアプローチ

- 1-1 ポカミスがなくなる理由
- 1-2 ポカミスを発生させる26の要因
- 1-3 知らなかった対策
まず初期ポカミスの80%の要因をつぶす
→NG/OKシート、潜在ポカミスの現在化、ポカミスをコストでとらえる
- 1-4 ルールを守らせるには
→ない標準をつくる、標準を整備する、新たな教育・訓練のしくみをつくる
計画的な人材育成、モラルのポカミスへの影響
- 1-5 うっかり対策
うっかりは人の特性から発生するどうしても出てしまうポカミス：出しにくい環境を整える
→従来の対策＋作業者思いの対策
- 1-6 限界作業
→検査ミス、入力ミス、判断ミスをAIでゼロ化する
AIの役割と可能性
- 1-7 ポカミスゼロへの3つアプローチ
①総合対策（小集団向け）
モラルアップも行う
②個別改善（頻度が少ないポカミスに対し1件1件対策）
③共通認識（職場、工場、会社全体における課題解決、チームエラー対策）

2. 実践2Sへのアプローチ

- 2-1 2Sでポカミスの遠因を対策する
- 2-2 2Sを短時間で効果的に実践する：更地化
- 2-3 変化に対応できるしくみづくり

3. 標準整備へのアプローチ

- 3-1 標準の実態
- 3-2 作業の統一
AT/S T 差の解消
ない作業標準をつくる
- 3-3 標準の不備の改善
①守る意味の明確化
②規格のあいまいさの明確化
③表現のわかりにくさの解消
④ポカミス動作の改善
⑤必要な動作を補う
⑥やりにくい作業の改善
- 3-4 限界作業とは

4. ビデオ標準作成へのアプローチ

- 4-1 教育・訓練の実態：新たな教育・訓練のしくみづくりの必要性
- 4-2 ビデオ標準で標準遵守、多能工化、技能伝承をスピーディーに確実に実現する
- 4-3 ビデオ標準作成の7つのポイント
- 4-4 ビデオ標準による教育・訓練の運用ポイント

5. モラルアップへのアプローチ

- 5-1 モラルとは
モラル低下の原因、動機付け
- 5-2 やる気にさせる8つの施策
まず自分でやってみる、やる意味を教える、目標を与える
成功させる、ほめる、一緒に考える、共に考える、毅然と接する
- 5-3 尊敬される上司になる
24の要因と12のタブー
- 5-4 モラルアップのための心がけ
モラルアップはコミュニケーション
自責の念、人は環境の生き物

*ポカミスの要因とメカニズムを解明し、有効な対策を打っていきます

ポカミスを発生させる26の要因

